

第三者評価

松原 平

(北九州市福祉事業団北九州市社会福祉研修所)

北九州市福祉事業団社会福祉研修所の松原平（マツバラ タイラ）と申します。私は居住施設の支援員として、長年、知的障害及び発達障害のある方のケアに携わって参りました。現在は社会福祉研修所というところで、市内の高齢者、障害児・者、児童の社会福祉施設従事者の人材育成を目的とする研修企画や研修講師を主な業務としております。

本日はこのような学術的な研究発表の場で、外部評価者として私に何ができるかということが良く分かりませんが、福祉現場の職員という立場からその代表者のつもりでここに立たせていただきました。各専門分野で先端的な研究されている諸先生方の発表を聞かせていただき、本当に勉強になりました。もちろん全部が理解できたとは申しませんけれども、対人援助に関わる学術分野がこんなにも広いものかということを改めて知ることができました。

今回の発表会の目的は、対人援助サービスというキーワードの下で、「援助」、「援護」、「教授」という行為が、これまで発表されました先生方の様々な学問分野において、その内容がこれらの3つのどの行為に当たるのか、さらにはこれらの行為としてそれぞれの専門分野においてどのような発展可能性があるのかと言うことを、同じテーブルに会して考えてみるということではなかったかと思います。

私のような福祉施設で直接支援に当たる者から言わせていただきますと、障害のある一人の人に対して様々な専門分野が関わっていただくことは有難いのですが、それによって一人の人に対する様々な見方とアプローチが個々別々になされることは、ご本人にとって非常に負担を強いられる場合があります。それは、多職種が集まる施設現場でも起こり得ることです。先に申しましたように私は現在、福祉人材の育成に当たっています。そこで必ず受

講者に見ていただくものがあります。それは、北米のノーマライゼーションが世界に広まった起爆剤とも言える1966年に出版されたアメリカの巨大州立施設の劣悪な状況を暴露した「煉獄のクリスマス」という写真集、これを必ず見せます。特に、そこに映し出される一人一人の無表情なあるいは何かを訴えているかのような顔を見ていただきます。そして、このときの状況と今のどこが違うのか、あるいは未だに同じ状況が続いているのではないかということを問いかけます。諸先生方がそれぞれの専門分野でご研究されるのは素晴らしいことですし、それによって多くの恩恵を受けていることも事実です。しかし、もしそれが障害のある一人一人の方の顔の見えない研究であったならば、その方々にとっては非常に不幸なことであると思います。ひとり一人の顔を見据えたご研究を期待いたします。

それからもう一つのお願いは、私は今日ここに立たせていただいて発言していますが、このような学術的な研究発表の場で現場の人間が発信する機会はまだ少ないと思います。今、地方でもこういった形の研究者の方々による講演会や研修会が多くなり、沢山の知識を得ることができるようになりました。それは非常にありがたいと思っております。ただ一方で、私どものほうから逆に発信する機会はまだ少ないように思えます。私が期待するのは、現在の発信技術の水準のままに、皆様方に発信できる場を提供していただきたいということです。

「対人援助学」は、対人援助に関わるあらゆる分野の共通言語として、対人援助サービスを実現するための「援助」「援護」「教授」という3つの行為を通して、自らの行為のあり方を具体的に見直していく尺度の機能を備えていると思います。私どもも大いに対人援助学を利用させていただくと共に、皆様と同じテーブルで意見交換をさせていただくことをお願いいたします。どうもありがとうございました。